

【学校経営ビジョン】

子どもたち一人一人を大切に、小規模校の特色を生かした教育活動を展開するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組により、子どもたち一人一人のよさや可能性を伸ばし自信をもたせる教育を推進する。

4段階評価

【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】

評価項目	評価指標	数値目標	自己評価		自己評価に対するコメント(○成果 ●課題)	改善方策	外部評価	学校関係者のコメント	
			項目別	総合					
学力の確かな向上	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着のための授業改善	○単元テスト学級担任期待平均点以上	3	3	○研究授業において特に授業改善の4つチェックポイントを意識した授業づくり・授業実践を行っていた。 ○少人数を生かした個別指導の徹底を行った。 ●ICTを生かした授業実践を積極的にしているが、漢字の定着にはあまり活用できなかった。	○IGTを効果的に活用する方法を今後も研修していく。 ○漢字学習は、紙とIGTを活用しながら学習させていく。	3.4	○漢字の学習に工夫が必要	
		○「家庭でつくる8つの習慣」の実施率70%以上	3		○家庭への啓蒙を進めたことで、7月の実施率は58%だったが、12月には目標である70%を超える実施率になった。 ●「家庭でつくる8つの習慣」について小中一貫で話し合いをする機会がなかったため取組の充実までとはいかなかった。	○参観日、保護者懇談会で確認する。 ○担任が繰り返し伝え、よい取組を紹介したり、よい方法を知らせたりする。 ○「8つの習慣」をもう一度確認し、家庭との連携を図る。		○よりよい方法、取組を伝えるということは、理解度も高くなり、励みにもなる。 ○8つの週間を今一度確認することは、大変良いことだと思う。今後も是非継続して欲しい。 ○管理職が授業の様子を見に行き、指導・助言を行うことは、非常に良いことだと思う。 ○先生方の賢明な取組が功を奏し、87%という高い比率を生んだと思う。	
	2 児童一人一人の理解度に応じた指導方法・体制の工夫	○授業が「分かる」と回答する児童80%以上	3	3.2	○12月、87%の児童が授業がよく分かっていると答えた。先生方が4つのチェックポイントを使った授業改善に取り組んだ成果である。 ○校内研修でICTの効果的な活用の方法を研究した。様々な実践を行いながら「分かる授業」を展開していった。	○日常的に管理職が授業の様子を見に行き、指導・助言を行う。		3.4	○朝の読書時間も長く取れないか。→毎日続けることで対応 ○読書することで、読解力の向上につながると思う。
		○チャレンジタイムの時間の計画的運用・実施	4		○週2回(火曜日に国語、金曜日に算数)を基本に補充・復習・繰り返し学習などに取り組ませた。継続して取り組ませることができた。	○学年の実態に応じた指導の一層の充実を図る。			
	3 読書活動の推進等による読書力の向上	○年間読書冊数、低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊以上	3	3	○図書主任や図書ボランティアを中心に、読書の楽しさを伝える活動の企画を定期的に行ったことで、図書室が利用されるようになった。 ○移動図書館くればん号が来た際は、積極的に利用するように働きかけたことで、ほとんどの児童が毎回8冊借りていた。 ●全児童が1週間に1度は本を借りるように推進してきたが、図書室の本が借りられない時期もあつた。	○火曜日又は水曜日は全児童が図書室で本を借りるなど、昼休みの利用を推進する。 ○担任が計画的に児童を図書室に連れて行き、短時間で読書に親しませる。		3.6	○家庭との連携により家読の楽しみを深めてほしい。
		○「学期に1回は家読に取り組ませた」と回答する保護者が70%以上	3		○参観日における読書の啓発活動、家読のやり方やカードの活用などの啓発を行った結果目標値である70%以上の家庭で家読の取組を行うことができた。 ●取組が積極的な家庭とそうでない家庭の2極化が生れてきた。積極的な取組が見られない家庭への啓蒙を今後も考えていきたい。	○家読カードの取組を参観日に紹介し、読書を勧める。 ○家読の取組をHPや通信で伝える。 ○本の持ち帰りを行い、今週読む本を決めたりする。			
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の定着	○児童アンケート「生活のきまりを守っている」と回答が80%以上	4	3.5	○生活のきまりを守っていると答えた児童が100%であった。全職員による共通理解共通実践の成果と言える。	○自ら考えて行動(考動)できるような言葉かけを全職員が行う。	3.6	○自ら考えて行動が非常によくできていると思う。	
	2 いじめのない学校	○心のアンケートにおいて、いじめ0・いじめ解消100%を目指す	4		○教育相談の充実と迅速な対応を行い、心のアンケートにおいて、いじめ0・解消100%に努めた。	○定期的な教育相談を今後も実施し、児童と保護者と職員との報告・連絡・相談を密に取り、連携を進める。		○いじめ0、非常に良いことだと思う。この状態を継続してほしい。	
		○学校が楽しいと感じる児童100%	3		○生徒指導の3機能(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する)を生かした授業や学級作りが職員がしたこととして、「学校が楽しい」と感じている児童がほとんどである。(友達とめめめ、親切にしている 100%・晴れた日の昼休みは、外で楽しく遊んでいる 100%) ●小規模校の学校であるため、自己決定の場を職員が奪ってしまう場面がある。	○自ら考えて行動できる児童を育成するために、考えさせる指導を行っていく。		○友達と仲が良く、その為気配りも見受けられる。 ○学校が楽しいのは、非常に素晴らしいと思う。登校時からの様子からも楽しさが伝わる。	
	3 コミュニケーション能力の育成	○挨拶や正しい言葉遣いに関するアンケート80%以上	3		○児童・保護者・職員のアンケートによる挨拶や正しい言葉遣いに関しては、目標値の80%は超えている。 ●職員や保護者からは、あいさつや返事について課題があるという意見もあった。	○あいさつや返事は、現場指導を徹底し、全職員で共通実践する。		○挨拶はよくできていると思うが、話に夢中になると疎かになってしまう。 ○地域でのあいさつは、よくしている。 ○下校時、休みの時も気持ちの良いあいさつをしてくれ、うれしい。	
健康教育の充実と体力向上	1 健康で安全な生活習慣の定着	○ふもとっ子ががんばり週間の早寝・早起き・朝ご飯の達成率90%以上	3	3	○学校保健委員会の充実を図ったり、積極的にほげんだよりによる啓発を行ったこと、朝ご飯の達成率は100%であった。 ●早寝・早起きに関しては少しはあるが目標値に達せなかった。	○学校保健委員会の内容を「睡眠の大切さ」についてするなど、家庭への啓発を行っていく。	3.5	○日々のマスク着用、手洗い・手指消毒は、今後も大切だと思う。	
		○新しい生活様式の指導と定着90%以上	4		○新しい生活様式は、職員による継続的な啓蒙によって児童に定着した。 ○日々のマスク着用、手洗い・手指消毒に関しては、児童、職員とも100%できていると答えている。	○3密対策・手洗い等の呼びかけを徹底する。 ○掲示物やほげんだよりで時期にあった情報を伝える。 ○感染対策をしながらの冷暖房の使用の仕方について指導を行っていく。			
	2 体力の向上	○体力テストの結果を踏まえた個人目標の設定 Tスコア50以上前年度より1割増	2		○体育の授業開始時やぐんぐんタイムなどでサーキットトレーニングを行ったことで、握力や持久力を高めることができた。 ●安全性の問題でサーキットで使っていた遊具が使えなくなったのでサーキットのメニューを変更する必要がある。 ●Tスコア前年度2割減の結果となった。コロナ禍による運動制限の影響も考えられる。	○体力向上プランを基に、学年または全校で落ち込んでいる項目の運動を行うなど共通実践をする。 ○日常的にできる体力づくりコーナーの設置をし、体力向上に向けて、コロナ禍でも安全にでき、運動量も確保できるサーキットメニューを考える。		○昼休みに竹馬、一輪車、なわとび等している様子を見ることができて、うれしく思っている。今後も継続してほしい。 ○学年によって落ち込んでしまった体力不足の種類はだいたい似かよっているのか、それとも学年によっては・・・というのがあるのでしょうか？ ○サーキットトレーニング用の遊具の補修を速やかにお願いしたい。	
		3 安全教育の推進	○年間3回以上の避難訓練の実施 ○子ども目録での安全点検の確実な実施		3	○計画した避難訓練は、計画通り行うことができた。また、反省を確実にし、備品の購入や避難訓練の改善などを行った。 ○毎月、命を大切にする日に安全点検を行った。施設で安全が確保できないものはすぐに市に申請をし、修理していただくようにした。 ●命を大切にする日の指導が不十分だった。		○命を大切にする日を計画的かつ効果的に取り組むために、教育課程に位置付ける。	○命の大切さを教えることは、非常に大切だと思う。しっかりと心にきざませてほしい。
家庭・地域と一体となった教育の推進	1 学校運営協議会を中核とした地域との連携	○授業への地域人材・素材の活用年間6回以上	4	3.8	○ふもとっ子を伸ばす会の協力をいただき、稲作体験活動(田植え・稲刈り・脱穀・もちつき・めもち等)や民俗芸能の指導をしていただくことができた。	○来年度も、外部講師を積極的に活用する。	3.8	○稲作体験、めのもち作り、餅つきの子どもの笑顔が、とても素晴らしい。今後もぜひ継続してほしい。 ○地域の協力を積極的に取り入れてほしい。	
		○家庭・地域との連携に関する保護者アンケート満足度80%以上	4		○今回のアンケートは7月と12月の2回とも満足度100%だった。	○今後も継続して学校行事や学習活動等に家庭や地域の方々の協力をいただいていることを発信し、感謝の気持ちを伝える機会を作っていく。		○学校、保護者が地域を受け入れてくださることに感謝。今後もぜひ参加させてほしい。	
	2 小中一貫教育の推進	○小中一貫教育の効果に関して80%以上の職員が感じる。	3		○「ふもとっ子ががんばり週間の取組」を徹底させる工夫を行ったり、「9年間で身に付けてほしい力」から高崎麓小重点項目をあげて、職員に共通理解・共通実践をおこなっていったことで、中学校を意識した指導ができた。 ●小中で話し合う必要がある取組がある。	○小中一貫教育研修会の取組について小中の職員で工夫・改善を行っていく。		○地域への情報発信を継続してお願いしたい。	
3 学校からの情報発信	○月1回の学校だよりの発信やきめ細かなHPの更新	4	○月1回以上の学校だよりの発信、1週間に2回のホームページ更新、職員による定期的な学級通信など、学校からの情報発信を積極的に行った。	○開かれた学校づくりを今後も全職員で進めていく。					